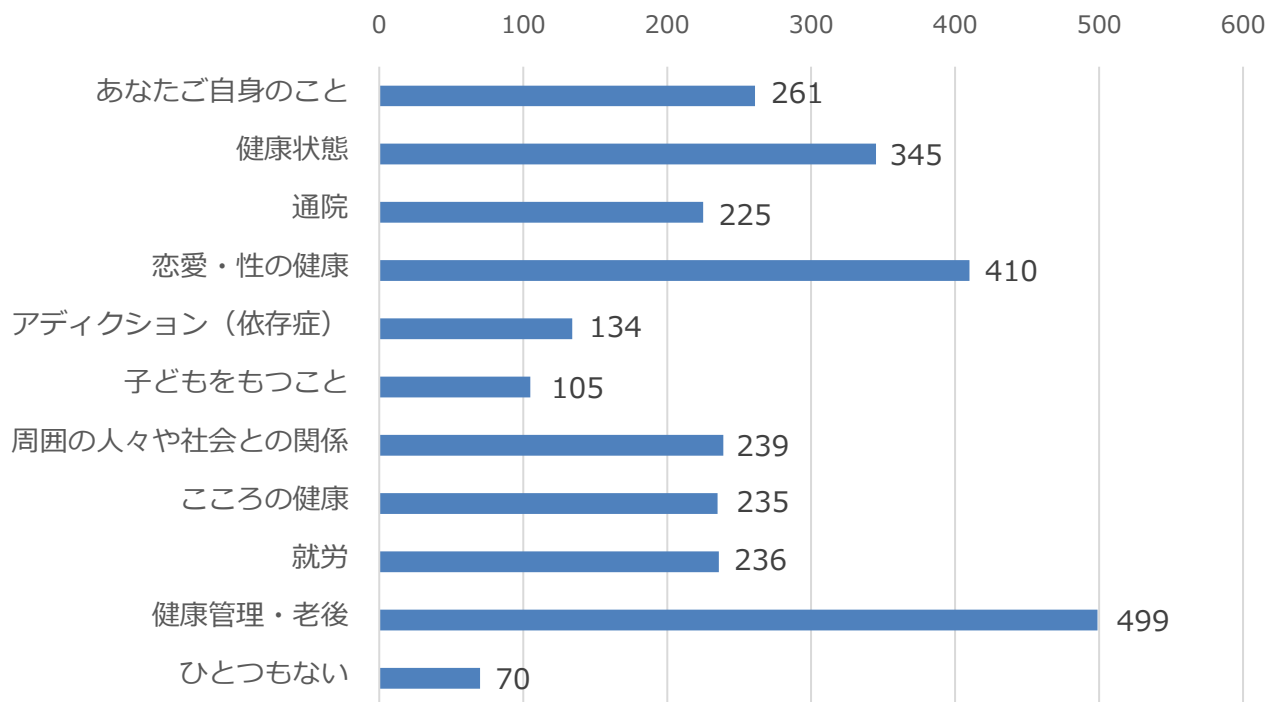


11. この調査について

■この調査で関心を持ったセクション

ここまで10セクションのうち、関心を持ったセクションを複数回答形式であげてもらったところ、特に多かったのは「健康管理・老後」、ついで多かったのは「恋愛・性の健康」「健康状態」の順でした。

図11-1 第3回Futures Japan調査のどのテーマに関心を持ったか
(人、n=908)



■「第2回 HIV 陽性者のためのウェブ調査」の結果を見聞きしたことがあるか

2016年12月から2017年7月にかけて実施した「第2回 HIV 陽性者のためのウェブ調査」の結果をこれまで見たことがあるかを聞いた結果、「いいえ」が73.6%、「はい」が26.4%でした。

どこで見たのかをたずねたところ、次の表11-1のように、Webサイト(「サマリー」、「グラフで見るFJ調査結果」)で見た人が約半数(48.3%)でした。一方で、冊子(「グラフで見る第2回 HIV 陽性者のためのウェブ調査結果」、「JaNP+ニュースレター」、「ゲイ・バイセクシュアル向けのコミュニティペーパー」)で見た人も四人に一人(25.1%)いました。

表 11-1 どこで「第2回 HIV 陽性者のためのウェブ調査」の結果を見たか(n=908)

| | 人数 |
|---|-----|
| 医療機関のスタッフから話を聞いて | 22 |
| HIV Futures Japanプロジェクトのウェブサイトで調査結果サマリーを見て | 133 |
| HIV Futures JapanプロジェクトのウェブサイトでPDF「第2回HIV陽性者のためのウェブ調査調査結果」を見て | 80 |
| 冊子「第2回HIV陽性者のためのウェブ調査調査結果」を見て | 50 |
| 調査結果報告会（キャラバンツアー）に出て | 12 |
| 日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラスのニューズレターを見て | 41 |
| ゲイ・バイセクシュアル向けのコミュニティペーパーを見て | 20 |
| 勉強会・講演会で話を聞いて | 11 |
| 学会で報告を聞いて | 22 |
| 他の陽性者から話を聞いて | 20 |
| NPO/NGOのメンバーから話を聞いて | 25 |
| その他 | 5 |

■ Futures Japan の「HIV 陽性者のための総合情報サイト」アクセス有無と頻度

回答者 908 人のうち、約 3 分の 2（66.4%）はこれまで同サイトにアクセスしたことはありませんでした。一方、四人に一人（23.6%）は半年に 1 回以下アクセスしていました。

表11-2 「HIV陽性者のための総合情報サイト」にアクセスした頻度

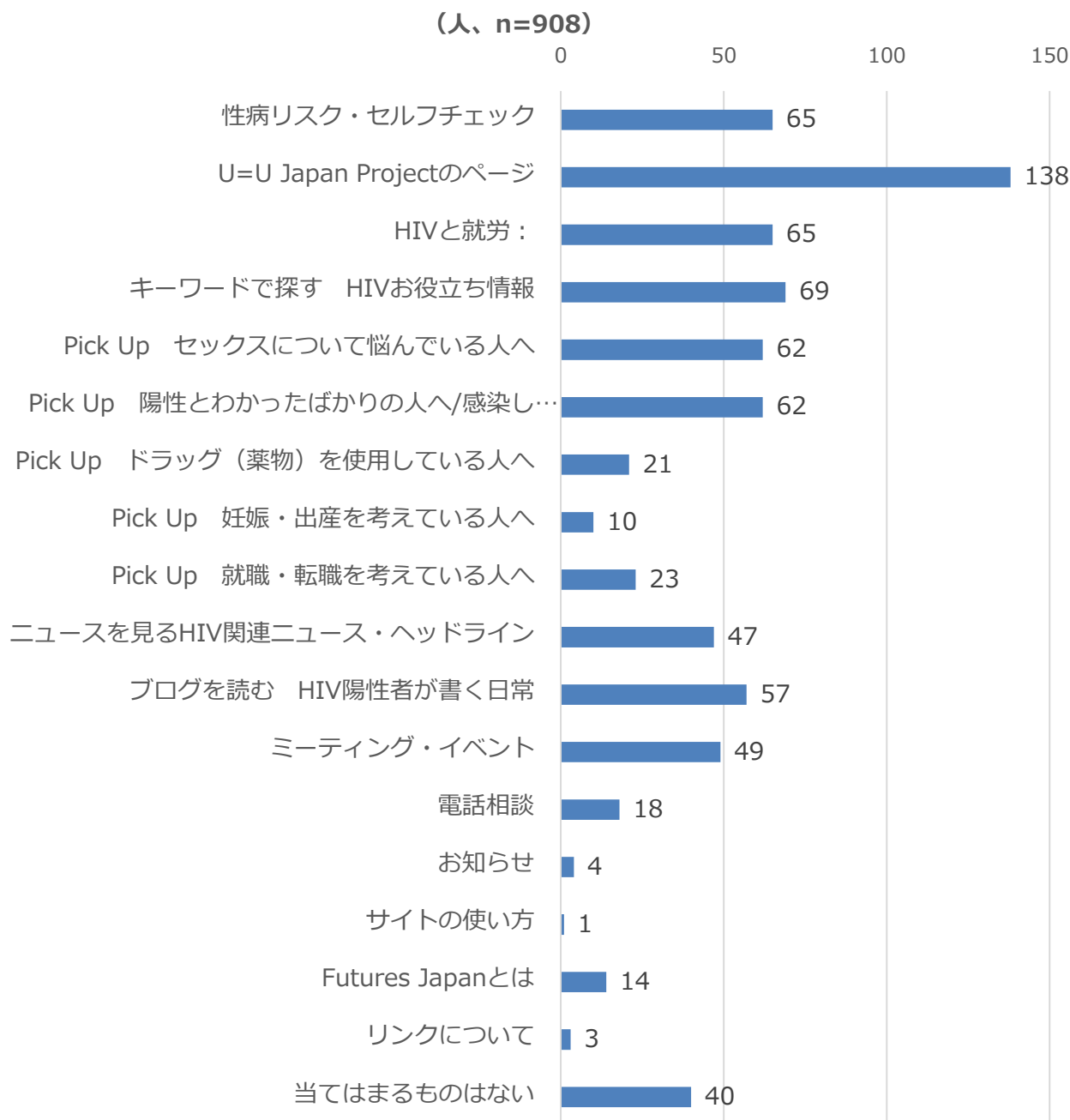
| | 人数 | % |
|-------------|-----|-------|
| アクセスしたことはない | 603 | 66.4 |
| 半年に1回以下 | 214 | 23.6 |
| 2～3カ月に1回程度 | 53 | 5.8 |
| 月1回程度 | 18 | 2.0 |
| 月2～3回程度 | 12 | 1.3 |
| 週1回以上 | 5 | 0.6 |
| 毎日 | 3 | 0.3 |
| 合計 | 908 | 100.0 |

■ 「HIV 陽性者のための総合情報サイト」で役に立ったもの

回答者 908 人（うち、「当てはまるものはない」40 人）のうち、「HIV 陽性者のための総合情報サイト」で役に立ったものを複数回答形式であげてもらったところ、特に多かったのは「U=U Japan Project のペー

ジ」、ついで多かったのは「キーワードで探す HIVお役立ち情報」「HIVと就労：慢性疾患や障がいのある人とともに働きやすい職場・社会づくりを考え支援する」の順でした。

図11-2 「HIV陽性者のための総合情報サイト」で役に立ったもの



■ 「HIV 陽性者のための総合情報サイト」に期待するもの、新たに加えてもらいたい内容、改善してもらいたい点

回答者 118 人の回答からしますと、医療・服薬・病院などの情報、人間関係（恋愛・出会い・SNS など）に関する情報、仕事やメンタルヘルスや老後など生活に関する情報についてのニーズが多いことがわかりました。

頻出語：

治療・医療・病院・診療・服薬：27

最新：9

パートナー：5

参加：5

以下、代表的なもの及び特徴的な記述を示します。なお、頻出語には下線を記してあります。なお、誤字や脱字と思われるものもそのまま記載しております。

- ・ 最新の投薬等の治療情報や地方のコミュニティ企画の紹介
- ・ 医療ニユースを充実してほしい。普通の記事と別にしてほしい。
- ・ プロジェクトというよりも、病院でもっとこの様なプログラムがあると教えてほしかったです。手帳の申請などで必死になり医師から言われるがままだったので。
- ・ 関東（特に東京）の情報がとても多いのは仕方ありませんが、地方の情報を増やして欲しい。歯科診療が可能な場所や、ピアミーティングの存在など。
- ・ 総合情報サイトなので、いろいろなジャンルの部分を加えてもらいたいです。たとえば、自己紹介や、パートナー募集とか。
- ・ フィードバックがほしい。たまたま HIV の陽性者であることで、支援や話し合いができるグループに参加して、自分の悩みを聞き、他人と共有したい。
- ・ 中高年の今後の生活不安に答えてもらいたいですね。
- ・ 国内外の交流、就職支援。
- ・ U=U が世界的に認められているとあるが、世間一般に認知は全然されていない。
- ・ 新型コロナウイルスと HIV+ との関係性を分かり易い文章と挿し絵で解説して欲しい。

■将来の「第4回 HIV 陽性者のためのウェブ調査」に要望するもの

回答者 158 人をまとめると、第4回 HIV 陽性者のためのウェブ調査に要望するものは、生活（仕事や老後）について、医療・服薬・健康・治療について、人間関係（性生活・出会い・恋愛など）について、差別や偏見についての要望が多いことがわかりました。

頻出語：

老後・高齢 18, 生活 16, 医療 14, 自分 12, 保険 10, メンタル 4, 健康 4

以下、代表的なもの及び特徴的な記述を示します。なお、頻出語には下線を記してあります。

- ・ 恋愛 仕事 老後
- ・ 経済的な問題や老後問題についてもっと深く掘り下げてほしい。
- ・ 高齢期に利用できる医療介護等の社会資源の情報
- ・ 高齢者向けの生活や交流のありかた

- ・陽性者の性生活の悩み。
- ・医療機関の診療拒否など結構されているので、その事についてもっと調査して欲しい。
- ・現在の医療制度(H I Vの治療基準)の満足度
- ・医療者等からの差別について
- ・新型コロナウイルスに罹患した事が有るのか否か等の質問。周囲にその様な人々が居たのか否か等の質問やどの様な医療サービスを受けのか等。
- ・HIV 陽性であるからこそ生活して気をつけていること、自分が HIV と最初知ったときにどれくらいショックだったか
- ・メンタルヘルスを掘り下げてほしい。メンタルが絶不調のときの対策など
- ・陽性者同士のコミュニケーションの方法についての項目。Twitterで陽性者としてのアカウントを作り、他の陽性者とのコミュニケーションを深めたり、情報やアドバイスを交換したりする人が多いと思う(自分もその一人)。その活用方法、効果、デメリットなどを調査してみてもどうか。
- ・治療を継続していくことの疲れやドロップアウトの経験。
- ・新しい環境になって初めて芽生える心情や感情があると思うので何とも言えない。パートナーシップのことについては、もっと触れてほしい。
- ・U=Uに特化した設問を増やして欲しい
- ・ライブイベント(マンション購入、パートナーの見つけ方など)の乗りこえかた

■全体を通じて感じたこと、本調査に回答して感じたこと、気づいた点

回答者 275 人をまとめると、主に次の通りでした。

- ・アンケートが長いので、短く、簡単にしてほしい。LGBTの人々や、陽性者が安心できる社会作りに役立ててほしい。
- ・回答に時間がかかった。全てをプルダウンにしてくれればもっと早く終わる気がする
- ・自立支援医療受給者証の取り扱いが病院によって違ったり、毎年更新の手続きの煩雑で hiv になってから●年ですが、自立支援の手続きがめんどくさいといつも思ってた。アンケートではその事に触れてないのが気になりました。
- ・ただ、HIV が生命の危機でなくなった今、他のことが原因で人生に悩んでいる人が大半ではないか。私は HIV になったことで、同じ境遇の人たちと繋がれるチャンスがほしい。
- ・自分はもうすべてを受け入れて、病気に対する不安、不満はないと思い込んでいましたが、質問に答えながら、意外と怒っている自分に気付き、ちょっと驚きました。もっともっと自分を理解しようと思いました。今回もこの企画に参加してよかったです。自分の心のケアをしていこうと思います。ありがとうございます。
- ・問題数は多かったが、感染がわかった当時や今の自分の気持ちが整理できて、いい機会になりました。
- ・U=U など新しい情報を知ることができて良かった。
- ・社会的に広く正しい知識が伝わり、偏見が少しでも改善される事を願います。
- ・インターネットの中で、陽性者とのコミュニケーションの場が増えるとありがたいと思います。
- ・HIV のかたが安心して暮らせる老後が必要と思う。